

【事業の成果】

・地元をはじめ遠方からも来場があり、多くの方々が地歌舞伎に強い関心を持っておられるとともに、地歌舞伎を通じた地域の活性化に期待をされていることを改めて認識した。

・演じ手のみならず地域の方と一緒に公演に向けての取り組みが出来たことから、地域の活性化に寄与したものと考えている。

・公演開催に対してねぎらいと感謝、そして次回公演への期待の言葉を多くいただいたことで、当研究会としてこの活動の発展と継続のために一層力を注がなければならないと実感した。そのためにも人員及び資金面の拡充を図る必要がある。

・次世代にこの地歌舞伎文化を伝えることを目的に、子供たちの参加を呼びかけたところ、小学生4名、中学生3名が自主的に参加をしてくれました。

これを機会にこの子たちが継続的に参加をしてくれることと、他の若い世代にも波及することを期待しながら地域の活性化を図っていきたいと考えおり、今後時間もかけて認知度を上げてゆきたい。

次回以降の演目・演出はその点を念頭において企画をしてゆく。

・今年度は機会がなかったが、今後公民館まつりなど様々なイベントで、だち歌舞伎のPRを兼ねてDVD上演あるいはミニ歌舞伎を披露できたら良いと考えています。

【実施内容】

・開演までの1時間、“太鼓喜楽”のメンバーによる太鼓演奏

・岐阜大学落語研究会“うかい家とまと”さんの落語

・「助六縁江戸桜」上演

別紙 1 - 2

【事業活動記録】

年月日	実施内容	備考
30年4月～9月	毎月2回稽古（9月より小中学生参加）	駄知公民館にて
30年10月～11月	月4回稽古	〃
30年11月23日	開場設営	駄知小学校体育館にて
30年11月24日	本番	〃
随時	化粧練習・大道具製作	
	衣装調達・作成	
	広報活動	

1964年ごろまで地歌舞伎が上演されていた土岐市駄知町の住民が「だち歌舞伎研究会」を立ち上げた。24日に同市駄知小学校の体育館で発足後初の公演を開く。だち歌舞伎の半世紀ぶりの上演に向け、稽古に熱が入っている。(斎藤航輝)

土岐・駄知で24日上演 住民ら稽古に熱

だち歌舞伎 半世紀ぶり

町内にはかつて陶栄座という芝居小屋があり、神社に歌舞伎を奉納していたが、途絶えてしまっていた。五六、五七年生まれの町民でつくる同級会「友輪会」が二〇一五年、還暦を前に思い出づくりをしたと美濃歌舞伎博物館・相生座(瑞浪市日吉町)の公演に出演すると、町内から多くの住民が観劇に訪れて好評だった。「次は地元でも公演したい」という声が強まり、本格的に研究会をつくり、今年四月から月二回、稽古を続けている。

二十四日の公演には、研究会の二十五人と地元の小中学生七人が「助六由縁江戸桜」に出演する。衣装や小道具などは美濃歌舞伎保存会(同町)から借り、所作や口調など演技指導も受けている。

主演の助六役の丹羽勇二さん(※)は「学会会のようにこっぴどくさしもあるが、うれしさの方が大きい

「文化として根付かせたい」



稽古をする丹羽さん(左)ら出演者たち=土岐市の駄知公民館で

い。駄知の人たちをあとと驚かせたい」と練習に力が入っている。芸者役の駄知中二年三浦琴充さん(※)も「現代語との発音の違いが難しいが、役になりきりたい」と意気込む。

研究会は、公演を今回限りせず、恒例行事にした。研究会=090(2349)0512

愛知から10組
中津川市への移住を考え
ている人を対象にした空き
家の見学ツアーが市内であ
り、愛知県内に住む十組十
七人が、所有者や市職員ら
の説明を参考に理想の家探
しをした。写真、10日撮影。

ツアーは、市定住推進部
が二年前に始めた。昨年ま
では、食や自然など地域の
魅力を伝える内容も盛り込
んでいたが、「一軒でも多
くの家を見たい」との要望
に応え、見学に特化したツ
アーを初めて企画した。

見学先は、市の空き家パ
ンクに登録された物件と、
協力先の不動産業者が管理
する空き家の計十軒。坂下







